

基本目標1 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

施策	主な事業	重要業績評価指標 (KPI) 又は実施目標								施策			外部有識者意見
		指標	参考値(H26)	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	目標値(H31)	平成31年度の実績	平成31年度の成果	5年間の振り返り等	
1	結婚の力になる	婚姻件数	299件 (H25)	478件 (H26)	375件 (H27)	368件 (H28)	381件 (H29)	375件 (H30)	310件	<未婚者の出会いの機会の創出事業> ・平成30年度政策集団PDGの政策提言の要素を取り入れ、従来の市内レストランでの交流イベントに加え、狭山丘陵ウォーキング及びプラネタリウムのチケット引換え券の配布等を行った。	<未婚者の出会いの機会の創出事業> ・市内の飲食店で交流会イベントと共に市内名所のウォーキング等を取り入れることで、市の魅力を伝えるとともに、結婚を望む若者に出逢いの機会を創出し、施策に貢献することができた。 (参加者28名、カップル成立7組)。	<未婚者の出会いの機会の創出事業> ・事業実施までの検討に、時間を要した。 ・当市の有配偶者率(男61.9%、女59.4%)は、東京都(男57.6%、女54.3%)及び国(男60.9%、女56.3%)よりも高い(平成27年国勢調査)。 ・婚姻件数は平成27年以降概ね横ばいで推移している。	・比較的、良好と判断する。
	未婚者の出会いの機会の創出事業	事業の実施回数	—	—	—	1回 (1回/3年間)	1回 (2回/4年間)	1回 (3回/5年間)	5回/5年間				

基本目標1 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

施策	主な事業	重要業績評価指標 (K P I) 又は実施目標								施策			外部有識者意見
		指標	参考値(H26)	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	目標値(H31)	平成31年度の取組	平成31年度の成果	5年間の振り返り等	
2	出産の力になる	合計特殊出生率	1.40 (H25)	1.37 (H26)	1.67 (H27)	1.48 (H28)	1.59 (H29)	1.47 (H30)	1.60	<p><特定不妊治療費助成事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・特定不妊治療医療費助成に加え、平成31年度から不妊検査等医療費助成を開始した。(助成件数10件) 	<p><合計特殊出生率></p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度の合計特殊出生率は1.47であり、東京都区市部で第2位であった。 	<p><合計特殊出生率></p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去5年間(平成26年度から平成30年度)での合計特殊出生率の平均は1.51であり、東京都区市部で第1位である。 	<p>・不妊治療に対する助成は、政府が力を入れると聞いているが、市は先行して実施しており、評価できる。</p>
	妊産婦支援事業	妊婦健診受診票交付数	795件	737件	729件	675件	661件	602件	800件	<p><妊産婦支援事業等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・妊娠届出書を提出した方の全てに、14回の妊娠検査受診票、妊婦子宮がん検診受診票及び妊婦超音波受診票を発行した。 	<p><特定不妊治療費助成事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・不妊検査等医療費助成を開始したことにより、対象者の不妊治療等にかかる医療費の負担軽減を図ることができた。 	<p><特定不妊治療費助成事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・市公式ホームページから、申請書のダウンロードを可能とするなど、申請に係る利便性を向上し、利用促進を図った。 	
	母子包括支援事業	①妊産婦面接者数及び②育児支援パッケージ受領者数	—	①737人 ②106人	①729人 ②594人	①675人 ②548人	①661人 ②527人	①602人 ②543人	750人	<p><母子包括支援事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・母子保健コーディネーターの専任を継続確保した。 ・配達員の訪問による育児支援パッケージの配布を実施した。 	<p><妊産婦支援事業等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・妊娠検査受診票等を発行したことにより、妊婦が費用負担をすることなく、必要な健診及び検査が受けられた。 	<p><妊産婦支援事業等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・妊婦健康診査受診票を使用しない里帰り出産等の方に助成金を支給し、妊婦が安心して出産できる環境整備を行った。 	

基本目標1 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

施策	主な事業	重要業績評価指標 (KPI) 又は実施目標								施策			外部有識者意見
		指標	参考値(H26)	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	目標値(H31)	平成31年度の取組	平成31年度の成果	5年間の振り返り等	
3 子育ての力になる	子育て支援の推進に対する市民の満足度		15.7%	12.0%	15.0%	19.7%	17.8%	18.8%	19.2%	<乳幼児育成支援等> ・市の独自健診として、5歳児健康診査を実施した。 ・乳児家庭全戸訪問事業は、出産後、おおむね4か月までの間に、里帰り先での訪問や保健センターでの面接など、個別に対応した。	<乳幼児育成支援等> ・各健診とも未受診者への健診受診の再勧奨を引き続き行い、受診率の向上に努めた。 ・乳児家庭全戸訪問事業により、子育て開始早期の不安の軽減やサービスの情報提供を希望する方全てに訪問または面接により実施できた。	<乳幼児育成支援等> ・健康診断未受診者への再勧奨にあたっては、手紙、電話、訪問等できめ細かくフォローしていく必要がある。 ・乳児家庭全戸訪問事業により、育児不安の軽減やサービスの情報提供を早期に適切に行えた。	・引き続き、確実な事業の実施を期待したい。
	乳幼児育成支援	乳幼児健康診査受診率	89.95%	90.30%	91.53%	91.80%	93.38%	92.00%	90.00%	<子育てネットワークの充実等> ・市内私立保育園3園に事業委託し子育てひろばを実施したほか、平成31年度から新たに児童館6館に子育てひろばを設置した。また、事業成果の向上を目指し、市報、ホームページ、チラシ等を最大限活用し、市民への広報活動に努めた。	<子育てネットワークの充実等> ・身近な交流の場での保護者のネットワーク作りや子育て相談などができ、保護者の支援が図れた。さらに児童館における子育てひろばの設置により、身近な交流の場が拡大し、子育て支援の充実が図れた。	<子育てネットワークの充実等> ・子育て世代に向けた事業を通し、保護者の子育ての孤立化を防ぎ、子育てを側面的に支援する必要がある。	
	子育てネットワークの充実	子育てひろばにおける子育て啓発事業実施回数	476回	472回	461回	444回	445回	433回	476回	<子どもがいきいきと育つ環境の充実> ・幅広い年齢の子どもが利用する児童館では、年齢に応じた児童館事業を着実に実施した。	<子どもがいきいきと育つ環境の充実> ・児童館事業により、児童に健全な遊びを提供することで、健康増進、豊かな情操の育成につながった。	<子どもがいきいきと育つ環境の充実> ・放課後の小学生の居場所の一つとして定着している反面、乳幼児親子の遊び場としての周知や中高校生向け事業の実施という点では、十分とはいえず、今後工夫が必要である。	
	子どもがいきいきと育つ環境の充実	児童館延べ利用者数	156,893人	157,856人	160,133人	158,069人	150,543人	138,633人 (※11か月)	160,000人				

※新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、令和2年3月に事業を実施しなかったため、平成31年4月から令和2年2月までの計11か月間の実績とした。

基本目標1 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

施策	主な事業	重要業績評価指標 (KPI) 又は実施目標								施策			外部有識者意見
		指標	参考値(H26)	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	目標値(H31)	平成31年度の取組	平成31年度の成果	5年間の振り返り等	
4	子育てとしごとの両立を支える	保育園の待機児童の数	14人(H26)	4人(H27.4)	7人(H28.4)	3人(H29.4)	24人(H30.4)	48人(H31.4)	0人	<保育体制の充実等> 保育士の確保に向け、保育士宿舍借上事業等の保育士の処遇改善等に係る補助を実施した。 <学童保育所等の運営> ・学童保育所の待機児童をランドセル来館事業で受け入れているが、平成31年度から、学童保育所の入所保留を経ずに、最初から学童保育所・ランドセル来館事業のどちらかを選択できるような事業を見直した。 ・学童保育所については、引き続き午後6時から7時までの延長保育を実施した。 <病児・病後児保育体制の整備> ・年度開始前の2月に市内保育施設を利用する全世帯に登録手続きに係る通知を送付し、登録の促進に努めた。	<保育体制の充実等> ・申請児童の多くが保育施設に入所できた。 <学童保育所等の運営> ・学童保育所、ランドセル来館事業により、放課後の児童の安全確保と健全育成環境の整備を図り、保護者が安心して働ける環境を整えた。 <病児・病後児保育体制の整備> ・病児・病後児保育室の開室により、236日間で延べ953人が利用し、子どもが病気で保育園等に預けられない場合でも、保護者が安心して働ける環境を整えることができた。	<保育体制の充実等> ・保育ニーズについては、少子化や女性の社会進出などを踏まえ、様々な視点から把握する必要がある、確実な把握が難しい。 ・保育施設の定員拡大のため、施設整備を進めてきたが、保育ニーズの増加や保育士不足により、平成30年4月から待機児童は増となっている。 <学童保育所等の運営> ・保護者からの要望が多かった学童保育所の延長保育の開始や、待機児童の多い地域に新たに民間学童保育所を開所するなどの施策を実施した結果、増加傾向にあった待機児童が大幅に減少した。 <病児・病後児保育体制の整備> ・病児・病後児保育室の登録者数は、周知を行っているものの横ばいとなっている。事業の更なる周知に併せて、保護者がより利用しやすくなるような事業構築について、検討が必要である。また、平成27年7月からお迎えサービスを開始し、子どもを持つ世帯の子育てに関する負担感の軽減を図った。	・目標の達成に向けて、事業を実施されたい。
	保育体制の充実	保育園の待機児童数	14人(H26)	4人(H27.4)	7人(H28.4)	3人(H29.4)	24人(H30.4)	48人(H31.4)	0人				
	学童保育所等の運営	学童保育所・ランドセル来館・放課後子ども教室登録者数	2,820人	3,191人	3,108人	3,163人	2,989人	3,202人	3,000人				
	病児・病後児保育体制の整備	病児・病後児保育室の登録者数	532人	518人	612人	628人	527人	495人	1,000人				

基本目標1 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

施策	主な事業	重要業績評価指標 (KPI) 又は実施目標								施策			外部有識者意見
		指標	参考値(H26)	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	目標値(H31)	平成31年度の取組	平成31年度の成果	5年間の振り返り等	
5 学校生活を充実させる力になる	授業内容がよくわかる児童・生徒の割合	小学生 84.8% 中学生 70.9%	小学生 77.2% 中学生 66.1%	小学生 83.1% 中学生 70.9%	小学生 78.5% 中学生 67.9%	小学生 83.7% 中学生 65.0%	小学生 83.7% 中学生 76.2%	小学生 90% 中学生 80%	<教育力向上事業> ・協力指導員(ティーム ティージャー)・学習指導 員・学習支援員の配置によ り、算数(数学)等の学習 において、習熟度に応じた 学習形態を工夫し、個に応 じた指導を展開した。 また図書館指導員の配置に より各教科における探究的 な学習の充実を図った。	<教育力向上事業> ・協力指導員(ティーム ティージャー)がいること によって、児童・生徒の授 業でのつまづきを防ぎ、基 礎学力を定着させること で、基礎的な学力向上を図 ることができており、事業 の成果がでている。 ・協力指導員配置時間につ いては、令和2年3月に新型 コロナウイルス感染症拡大 の影響により事業を停止し たため減少したが、それま では昨年並みの配置時間を 確保していた。	<教育力向上事業> ・限られた時間のなかで、 児童・生徒に学習内容をよ り深く理解させるために は、指導員等の能力向上及 び教員等との連携が不可欠 である。	・学習指導員・学習支援 員の配置やスクールカウ ンセラー面談によるいじめ 対策について、しっかり実 施できていることが確認で きたので、引き続き強力 に対策を進めてもらいた い。 ・スクールカウンセラーが 行う全員面接は、子ども たちの考えが分かり、より ケアをしやすくなったこと から、評価できる。 ・スクールカウンセラー事 業は、何かあった際に相 談できる環境があること は重要であるため、引き 続き実施してほしい。	
	教育力向上事業 ティーム ティージャー 配置時間数	-	9,608.5時間	10,130時間	10,546時間	11,026.5時間	10,860時間 (※11か 月)	11,725時間	<いじめ・不登校対策事業> ・児童生徒が抱える問題が 多様化しているなか、ス クールカウンセラーやス クールソーシャルワ ーカー、その他の関係機関が 連携し、多角的な観点から 問題の改善に取り組んだ。	<いじめ・不登校対策事業> ・スクールカウンセラーの 全員面接が、いじめや不登 校の未然防止に寄与してい る。また、日常生活での活 動及び緊急時の児童・生徒 への個に応じた対応によ り、児童・生徒との関係を 築くことができ、児童・生 徒の居場所作りや安心感に つながっている。 ・スクールカウンセラーの 配置については、令和2年3 月に新型コロナウイルス感 染症拡大の影響により事業 を停止したため減少したが、 それまでは昨年並みの配 置時間を確保していた。	<いじめ・不登校対策事業> ・スクールカウンセラーを 各学校における生活指導全 体会等に参加させること で、教員との連携を図って いく。		
	いじめ・不登校 対策事業 スクールカ ウンセラー 配置時間数	3,693時間	4,332時間	4,281.5時間	4,094.5時間	5,092.5時間	4,845時間 (※11か 月)	7,650時間	<放課後等補習教室事業> ・放課後等補習教室とし て、全小・中学校を対象に 地域未来塾を実施し、児 童・生徒の学力向上を図 った。	<放課後等補習教室事業> ・全小・中学校を対象に地 域未来塾を計736回実施 した。	<放課後等補習教室事業> ・補習教室等として、事業 形態を変更し、規模を全 小学校から全小・中学校へ と拡大した地域未来塾を 実施した。		
放課後等補習教 室事業	放課後等補習 教室実施時間 数 (参考:学カス テップアップ推進 地域指定事業を含 む時間数)	-	788時間 (4,726時 間)	475時間 (4,713時 間)	490時間 (4,145時 間)	平成29年度 末で事業が 終了	平成29年度 末で事業が 終了	1,575時間					

※新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、令和2年3月に事業を実施しなかったため、平成31年4月から令和2年2月までの計11か月間の実績とした。

基本目標2 しごとをつくり、安心して働ける環境をつくる

施策	主な事業	重要業績評価指標 (KPI) 又は実施目標								施策			外部有識者意見
		指標	参考値(H26)	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	目標値(H31)	平成31年度の取組	平成31年度の成果	5年間の振り返り等	
1	しごとをつくる	創業塾受講者の創業件数	—	4件	3件 (7件/2年間)	3件(窓口相談含) (10件/3年間)	2件 (12件/4年間)	3件 (15件/5年間)	15件/5年間	<創業支援事業> ・東大和市創業支援事業計画に基づき、「経営」「財務」「人材育成」「販路開拓」の分野を学ぶ東大和市創業塾を実施した。	<創業支援事業> ・創業準備のために16名が創業塾を受講した。また、その創業塾受講生の中から市内創業者を排出することができた。今年度は創業塾修了生の創業店舗に出向き創業までの講義をしていたが、塾生の出店意欲の向上を図った。	<創業支援事業> ・継続して市内創業者を創出するため、事業の継続と事業内連携体制の強化や、支援内容を検討しながら、事業の充実を図る必要がある。	・中小企業大学校では、市と連携を図り創業支援を実施しているが、支援アドバイザーを2名から10名に増員し体制を強化すると共に女性のみでの創業塾の開催等、新たな取組を企画している。中小企業大学校として、更なる改善を目指していきたい。
	創業支援事業	創業塾の回数	—	2回	1回 (3回/2年間)	1回 (4回/3年間)	1回 (5回/4年間)	1回 (6回/5年間)	6回/5年間	<創業に関する相談支援事業> ・「創業支援相談窓口」を東大和市商工会及び中小企業大学校東京校と連携して実施した。また、創業塾を実施していない時期等については、創業希望者に対して創業に関する相談支援を実施した。	<創業に関する相談支援事業> ・創業支援相談窓口を設置して創業の知識付与を行う必要がある。	<創業に関する相談支援事業> ・周知等も含め、連携機関との実施体制を再構築し、市民等が参加しやすく、また、内容の充実を図っていく必要がある。	
	創業に関する相談支援事業	創業に関する相談支援事業	—	14件	17件	9件	10件	8件	25件				

基本目標2 しごとをつくり、安心して働ける環境をつくる

施策	主な事業	重要業績評価指標 (KPI) 又は実施目標								施策			外部有識者意見
		指標	参考値(H26)	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	目標値(H31)	平成31年度の取組	平成31年度の成果	5年間の振り返り等	
2 地域の産業を元気にする	商工会の加入者数		952人	934人	940人	929人	935人	911人	952人	<p><商工会の加入者数> ・商工会役員と市の職員が協力して会員増加のため市内事業者に対して勧誘活動を実施した。</p>	<p><商工会の加入者数> ・新規創業・開業の支援を市で実施し、市内の事業者を増やす取組を行うことで、商工会への入会に繋がった。</p>	<p><商工会の加入者数> ・商工会の加入者は増加しているが、同時に廃業・退会者もいるため、全体として増えていない。</p>	<p>・商工会では、国の新型コロナウイルス感染症に対する施策は流動的であるため、手探り状態で新しい生活様式への対応を進めている。市とは、これまで以上に親密に情報共有を図ることで、事態を好転させたい。</p>
	経営基盤の強化	金融機関へのあつせん件数	67件	55件	60件	44件	55件	68件	67件	<p><経営基盤の強化> ・小規模事業を行う市内事業者に対し、事業の育成、振興及び経営の安定化を図るため事業資金の融資斡旋を行った。</p>	<p><経営基盤の強化> ・市内事業者の資金需要に対して、利子補給及び保証料補助による負担軽減を図られた。</p>	<p><経営基盤の強化> ・市内金融機関と協力しながら継続利用の促進を図るとともに、新規利用希望者に対する周知が必要である。</p>	
	商店街等の活性化の促進	商店街等が実施するイベントの回数	17回	12回	12回	11回	13回	12回	17回	<p><商店街等の活性化の促進> ・「東大和市チャレンジ戦略支援事業補助金」を活用し、市内各商店街等が売上増加等の目的で期間を定めてイベント事業を実施した。</p>	<p><商店街等の活性化の促進> ・イベント事業を通じて商店街各個店の売り上げ増加等の活性化が図れた。</p>	<p><商店街等の活性化の促進> ・商店街数の減少及び利用商店街における実施予算の確保が課題である。商店会の会員数が減少することで、商店街としての活気を維持することが困難となる。このため、商工会等と連携した、イベントや売り上げの向上に結び付く取組を実施し、活性化を図る必要がある。</p>	

基本目標2 しごとをつくり、安心して働ける環境をつくる

施策	主な事業	重要業績評価指標 (KPI) 又は実施目標								施策			外部有識者意見
		指標	参考値(H26)	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	目標値(H31)	平成31年度の取組	平成31年度の成果	5年間の振り返り等	
3	しごとを見つける力になる	就職相談室を利用して就職した人の数	677人	659人	612人	540人	396人	381人	677人	<p><就職相談室事業></p> <ul style="list-style-type: none"> 立川公共職業安定所と共同で設置している「東大和就職情報室」を通じて、市民及び周辺住民の雇用機会の確保に努めた。 <p><就職面接会の開催></p> <ul style="list-style-type: none"> 立川公共職業安定所と共催で、東大和市周辺企業の人事担当者と直接面接ができる「ミニ就職面接会」を3回開催した。 <p><東大和くらし・しごと応援センター「そえる」事業></p> <ul style="list-style-type: none"> 生活困窮者自立支援法に基づき、「東大和市くらし・しごと応援センター「そえる」を設置し、生活困窮者の就労、その他自立に関する相談支援業務等を行った。 	<p><就職相談室事業></p> <ul style="list-style-type: none"> 「東大和市就職情報室」を通じて就職に係る情報等を提供することで就職に寄与した。また、市役所1階の市民ロビーにのぼり旗等の掲出を行い、就職情報室の周知を図った。 <p><就職面接会の開催></p> <ul style="list-style-type: none"> 平成29年度から実施方法を「ミニ就職面接会」に変更し、参加者並びに就職者ともに増加が図れ、以降一定の就職者数は確保できている。 <p><東大和くらし・しごと応援センター「そえる」事業></p> <ul style="list-style-type: none"> 相談支援事業を継続的にを行い、平成31年度も国が定める新規相談件数の目安値の164件を大きく上回った。また、相談支援事業で相談を受けた方のうち就労支援を69人に実施し、延べ42人の就労が決定した。 	<p><就職相談室事業></p> <ul style="list-style-type: none"> 市役所本庁舎5階に、就職情報室という施設があることについて、まだまだ周知しきれていない部分があるため、今後も引き続き利用促進に向けた情報提供などを積極的に行っていく必要がある。 <p><就職面接会の開催></p> <ul style="list-style-type: none"> ミニ就職面接会の実施にあたり、市内事業者と連携機関とが協力して参加者及び参加事業者の確保に努め、市内の就職者の増加につなげていく必要がある。 <p><東大和くらし・しごと応援センター「そえる」事業></p> <ul style="list-style-type: none"> 本事業は、生活保護に至る前の生活困窮者や生活保護を脱却した者が再び保護に陥らないようにするための第二のセーフティネットであり、継続的に実施していく必要がある。法施行から日が浅く、国の運用方針も毎年のように変化しているため、今後も国の動向を注視しながら、事業運営を行っていく。 	<p>・就職相談室への相談者数は、新型コロナウイルス感染症の影響により減少したが、新型コロナウイルス感染症の影響による失業者が増加している状況である。そこで、ハローワークでは、対面ではなく、オンラインで就職先の紹介、及び採用面接を受けられるよう、整備を進めている。引き続き、市と協力して取り組んでいきたい。</p>
	就職相談室事業	就職情報室への来場者数	13,262人	10,813人	8,781人	8,508人	6,384人	6,145人	13,262人				
		就職面接会の開催	就職面接会への参加者数	58人	49人	45人	53人	62人	46人	58人			
	東大和くらし・しごと応援センター「そえる」事業	「そえる」相談件数	150件	349件	259件	250件	294件	296件	200件				

基本目標3 東大和市のサポーターをつくり、育てる

施策	主な事業	重要業績評価指標 (KPI) 又は実施目標								施策			外部有識者意見
		指標	参考値(H26)	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	目標値(H31)	平成31年度を取組	平成31年度の成果	5年間の振り返り等	
1 地域ブランドを創出する	ブランド商品の商談件数	-	-	-	-	-	-	-	15件/5年間	<p><特産品の開発・販路開拓事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャラクター商品取り扱い希望者に対しては、使用申請の承認手続きや販売方法について調整を図り、引き続き円滑に販売できるよう支援した。 	<p><特産品の開発・販路開拓事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・市の特産品等を販売する店舗が増えることで、当市及び特産品を来訪者に知ってもらえる機会となり、市及び市の特産品のイメージの向上につながった。 	<p><ブランド商品の商談件数></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域ブランド創出に向けて、市内の農業・工業・商業、また、サービス業等との異業種交流の促進を図る。また、特産品取扱店舗を増加させるため、商工会等と連携強化を図る必要がある。 	<p>・うまかんべえ～祭は、年々来場者が増えており、評価することができる。また、市の一大イベントであるとともに、情報発信の面から見て重要である。今後は、周辺市町村や企業等と連携し、地域の物産展や有名人によるトークショー等を実施することで、情報発信の場として、更に発展させてほしい。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症の影響により、既存のイベントに関する考え方を見直す必要があるのではないかと。例えば、うまかんべえ～祭と産業祭を別々で開催しているが、近隣自治体では、既に「市民まつり」として一本化している。関係者の事務負担等の軽減に繋がると思うので、検討してほしい。</p>
	特産品の開発・販路開拓事業	市特産品等(商工会特産品及びキャラクター商品)を販売する店舗数	55店舗	60店舗	59店舗	57店舗	60店舗	54店舗	80店舗	<p><ご当地グルメの開発></p> <ul style="list-style-type: none"> ・うまかんべえ～祭では、毎年、新たな企画を取り入れ、来場者が飽きない仕掛け作りをしている。31年度はフリーマーケットの拡大、資源物中間処理施設公開の同時開催等、内容を充実させて、交流人口の増加を図った。 	<p><ご当地グルメの開発></p> <ul style="list-style-type: none"> ・うまかんべえ～祭は平成30年度を4,500人上回る来場者があり、ご当地グルメに対して、多数の意見を取り入れる事ができ、また、市民協働による観光イベントとして定着し、市の魅力発信と認知度の向上が図れた。 	<p><特産品の開発・販路開拓事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・特産品を販売する店舗数は、急激な伸びは見られないものの、キャラクター商品の種類やキャラクターの活用機会は増加傾向にあり、市内外の幅広い層に向けて商品をPRすることができている。また、独自に東京都主催事業へ出品するなど販路開拓に取り組む事業者も出てきている。 	
	ご当地グルメの開発	うまかんべえ～祭の来場者数	37,000人	41,500人	42,500人	62,000人	82,000人	86,500人	50,000人	<p><地域資源の発掘・活用></p> <ul style="list-style-type: none"> ・第8回東やまと市まちフォトコンテストでは、第7回と同様に、人も東大和の魅力と位置付け、「風景写真」と「人と暮らしの写真」と、2つのテーマを設定した。 	<p><地域資源の発掘・活用></p> <ul style="list-style-type: none"> ・フォトコンテストでは、多くの魅力ある写真が応募された。また、新規協賛先を募り、各賞を拡充したことから、コンテストの充実が図れた。 	<p><ご当地グルメの開発></p> <ul style="list-style-type: none"> ・グルメコンテスト等を行い、多数の意見を取り入れたご当地グルメの創出は行っているが、入賞メニューや既存の特産品を使った新たな特産品までには至っていない。 	
地域資源の発掘・活用	フォトコンテストの応募作品数	394枚	569枚	666枚	493枚	424枚	448枚	600枚	<p><地域資源の発掘・活用></p> <ul style="list-style-type: none"> ・限られた市内観光資源の中で、まちフォトコンテストを継続開催するにあたっては、似たような構図の応募写真が多くなる傾向から、マンネリ化を避けるため、テーマの設定等で工夫をする必要がある。 				

基本目標3 東大和市のサポーターをつくり、育てる

施策	主な事業	重要業績評価指標 (KPI) 又は実施目標								施策			外部有識者意見
		指標	参考値(H26)	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	目標値(H31)	平成31年度を取組	平成31年度の成果	5年間の振り返り等	
2 東大和市の魅力を伝える	市Facebookページの「いいね！」の数	334いいね!	416いいね!	517いいね! (933いいね!/2年間)	754いいね! (1,687いいね!/3年間)	994いいね! (2,681いいね!/4年間)	1,159いいね! (3,840いいね!/5年間)	5,000いいね!/5年間	<p><市Facebookページの「いいね！」の数></p> <ul style="list-style-type: none"> 魅力的な写真を用いることを心がけるなど、多くの市民に投稿を見てもらう工夫に努めた。また、投稿の際の事務決裁方法を変更し、より即時性のある投稿を可能とした。 	<p><観光情報発信事業></p> <ul style="list-style-type: none"> 産業振興課以外の観光につながるイベント等を発信する機会が増えた。このことにより、東大和市の魅力ある地域資源を発信する機会が増加した。 	<p><市Facebookページの「いいね！」の数></p> <ul style="list-style-type: none"> 事務決裁方法の変更により、投稿数は増えたものの、「いいね！」数の増加率は以前から大きな変化が見て取ることができないことから、興味を惹く話題を取り上げるなど、投稿の質を上げることが必要である。 	<p>・新型コロナウイルス感染症の影響がある中においても、市の魅力を効果的に伝えるためには、SNSに頼り過ぎるのではなく、感染症対策を講じたうえで、実際にイベントを実施して伝えていくことが大切である。実際に、郷土博物館がプラネタリウムで「ハナビリウム」を開催したが、話題となりメディアにも取り上げられ、大変好評であった。</p> <p>・うまべえのデザインマンホールが好評である。場所を取らないことから、良いPR方法だと感じる。</p> <p>・デザインマンホールのカードを集める愛好家がいる。市外の方が市を知ってもらえきっかけとなるため、良いPR方法である。</p>	
	観光情報発信事業	観光アプリログイン数	-	2,315回	4,138回 (6,453回/2年間)	6,629回 (13,082回/3年間)	9,145回 (22,227回/4年間)	10,381回 (32,608回/5年間)	100,000回/5年間	<p><観光情報発信事業></p> <ul style="list-style-type: none"> 観光アプリについて、ボランティア団体「東大和観光ガイドの会」と協力し、トーク機能を活性化させた。 	<p><観光キャラクターを活用したPRの推進></p> <ul style="list-style-type: none"> 東大和市観光キャラクター「うまべえ」が市内外のイベントに参加することでキャラクター及び市の知名度の向上が図れた。 		<p><観光情報発信事業></p> <ul style="list-style-type: none"> 観光アプリでは、常に旬な情報を発信しないアプリの活用度が下がってしまう。情報の更新頻度や内容の充実を図りながら、引き続き全庁的に情報発信の媒体として活用を呼びかける。
	観光キャラクターを活用したPRの推進	観光キャラクター稼働回数	34回	65回	52回	54回	47回	37回	50回	<p><観光キャラクターを活用したPRの推進></p> <ul style="list-style-type: none"> 着ぐるみの貸出も含め、市内のイベントを中心に多くのイベントに参加した。 新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響から、令和2年2月下旬以降は各方面のイベントが中止となり、稼働回数が減少した(最低6イベントへの出演予定があった)。 	<p><観光情報の多言語対応等></p> <ul style="list-style-type: none"> 多言語化した観光マップを外国人観光客が多く訪れる東京都庁観光情報センター等に設置することで、外国人旅行者に対し、東大和市の魅力の発信が図れ、多言語化した観光案内板とともに、受入環境が整備できた。 		<p><観光キャラクターを活用したPRの推進></p> <ul style="list-style-type: none"> PR効果を見据えて、観光キャラクターが参加するイベントの精査や、円滑な着ぐるみの貸し出しを行いながら、キャラクターを活用したPRの推進を図っていく。
観光情報の多言語対応	外国語対応看板の設置数	-	26か所	-	-	-	-	※観光案内板(1か所)については4か国語に対応	26か所	<p><観光情報の多言語対応等></p> <ul style="list-style-type: none"> 多言語化した観光マップについては、東大和市へ来訪する動機につながるような、効果的な配布や設置場所の開拓が必要である。 			

基本目標3 東大和市のサポーターをつくり、育てる

施策	主な事業	重要業績評価指標 (KPI) 又は実施目標								施策			外部有識者意見
		指標	参考値(H26)	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	目標値(H31)	平成31年度の取組	平成31年度の成果	5年間の振り返り等	
3 東大和市への観光客を増やす	観光事業の推進に対する市民の満足度	6.2%	5.5%	7.6%	6.5%	6.8%	8.0%	13.3%	<p><魅力あるイベントの実施></p> <ul style="list-style-type: none"> ・うまかんべえ祭は、新たな企画を取り入れ、来場者が飽きない仕掛け作りを行った。具体的には、フリーマーケットの拡大、資源物中間処理施設公開の同時開催等、内容を充実させて、交流人口の増加を図った。 <p><観光ガイド事業等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光ボランティアガイドの養成の場として、平成31年度については、川越市シルバー人材センターが実施する、まち歩きガイドの現地実習や、ガイドとしての基本姿勢、役割、接遇(おもてなし)をテーマにした観光ボランティアガイド養成講座を開催した。 <p><文化財等の特別公開></p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化財ボランティアの協力を得て、毎月の定例公開のほか、市のイベント開催時において要請に応じて公開した。また、市民グループ、研究団体、学校教育の求めに応じて解説を行った。 	<p><魅力あるイベントの実施></p> <ul style="list-style-type: none"> ・うまかんべえ祭は、平成30年度を4,500人上回る来場者があり、市民協働による観光イベントとして定着し、市の魅力発信と認知度の向上が図れた。 <p><観光ガイド事業等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・登録している観光ボランティアガイドにおいて、まち歩きイベント等を通じて、市の魅力を参加者に伝える役割を担えた。 ・観光ボランティアガイド養成講座については、既存のボランティアガイドのスキルアップの他、新規ボランティアガイドの発掘の場として実施し、新規で3名が参加した。 <p><文化財等の特別公開></p> <ul style="list-style-type: none"> ・平和の大切さと悲慘な戦争の実体、東大和の地域がかつて戦災に遭った過去を広く知ってもらうことができた。 ・平成31年度の変電所の来場者は、5,709人であった。 	<p><魅力あるイベントの実施></p> <ul style="list-style-type: none"> ・うまかんべえ祭では、来場者の増加に備え、お祭りの円滑な運営を維持することが課題である。今後も新しい企画を取り入れ、地域活性化に繋ぎつけていきたい。 <p><観光ガイド事業等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光ボランティアガイドの活躍の場は広がりつつあるが、ガイドの登録制度の周知が図れていないことや、講座の参加者の固定化などにより、登録者が増えていない。観光ボランティアガイドの活動の場の増加や、観光ボランティアガイド登録制度のPR等を強化し、観光ボランティアガイドの認知度の向上を図る。 <p><文化財等の特別公開></p> <ul style="list-style-type: none"> ・変電所の保存・改修工事後、どのように公開していくか検討する必要がある(2階部分の公開も検討)。 	<p>・うまかんべえ祭は、市の一大観光イベントとして定着し、市の魅力発信に多いに貢献しており、年々来場者が増えていることから、評価できる。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症の影響により、うまかんべえ祭を含めた多くの行事が中止となった。その結果、継続性が絶たれてしまうことが懸念される。今後、伝統行事や地域行事等の良き習慣を継続して実施する方法について検討してほしい。</p>	
	魅力あるイベントの実施	うまかんべえ祭の来場者数	37,000人	41,500人	42,500人	62,000人	82,000人	86,500人					50,000人
	観光ガイド事業	観光ボランティアガイド登録者数	—	21人	21人	22人	24人	19人					30人
	文化財等の特別公開	旧日立航空機機変電所特別公開日数	5日	14日	58日	42日	43日	37日	7日				

基本目標4 人とのつながりを大切にしながら元気に安心して暮らせる

施策	主な事業	重要業績評価指標 (KPI) 又は実施目標								施策			外部有識者意見
		指標	参考値(H26)	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	目標値(H31)	平成31年度の取組	平成31年度の成果	5年間の振り返り等	
1 生きがいを持つ市民を増やす	健康寿命	男性81.25歳 女性82.65歳 (H25)	男性81.44歳 女性82.83歳 (H26)	男性81.52歳 女性82.87歳 (H27)	男性81.63歳 女性82.94歳 (H28)	男性81.45歳 女性82.81歳 (H29)	男性81.46歳 女性82.71歳 (H30)	男性82歳 女性83歳		<p><健康づくり・介護予防の推進></p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護支援いきいきボランティア活動を実施するとともに、介護予防リーダー及び体操普及推進員については養成講座や活動支援を行った。 <p><生活習慣病の予防></p> <ul style="list-style-type: none"> ・大腸がん検診と基本健診のセット検診を増枠した。 <p><生涯学習の推進></p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期利用グループ数増進のため、公民館主催講座開催後の自主グループ化を積極的に促進した。 	<p><健康づくり・介護予防の推進></p> <ul style="list-style-type: none"> ・各ボランティア活動を行っていただくことが生きがいを持つことに繋がり、目標達成に貢献をしている。 ・スポーツ・レクリエーションの機会の創出として、東京都市町村ポッチャ大会に市民が参加し、障害者スポーツへの関心を広めた。 <p><生活習慣病の予防></p> <ul style="list-style-type: none"> ・検診受診率の向上につながった。 <p><生涯学習の推進></p> <ul style="list-style-type: none"> ・公民館主催講座後に複数の自主グループが設立され、活動が開始された。 	<p><健康づくり・介護予防の推進></p> <ul style="list-style-type: none"> ・各ボランティアの活動の継続及び地域のニーズに対し、担い手が不足している。ボランティアの活動を継続するために、モチベーションを維持するための支援が必要である。 ・各ボランティア活動の普及啓発を行い、新しい担い手を発掘する。また、ボランティアのニーズに合わせた、活動継続のための支援を今後も実施していく。 <p><生活習慣病の予防></p> <ul style="list-style-type: none"> ・検診受診勧奨の工夫及び受診しやすさを検討する必要がある。 ・周知活動に力を入れていく必要がある。 <p><生涯学習の推進></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自主グループ化に至らなかった講座については振り返り、講座受講後も継続的な学習の意欲を持てるような魅力的な講座が企画できるよう検討する。 ・おとなたちの公活パーティについては、効果的なイベントになるよう開催内容及び周知方法を見直す必要がある。 	・引き続き、確実な事業の実施を期待したい。
	健康づくり・介護予防の推進	介護支援いきいき活動登録者数	100人	104人	97人	101人	108人	108人	120人	<p><健康づくり・介護予防の推進></p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護支援いきいきボランティア活動を実施するとともに、介護予防リーダー及び体操普及推進員については養成講座や活動支援を行った。 <p><生活習慣病の予防></p> <ul style="list-style-type: none"> ・大腸がん検診と基本健診のセット検診を増枠した。 <p><生涯学習の推進></p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期利用グループ数増進のため、公民館主催講座開催後の自主グループ化を積極的に促進した。 	<p><健康づくり・介護予防の推進></p> <ul style="list-style-type: none"> ・各ボランティア活動を行っていただくことが生きがいを持つことに繋がり、目標達成に貢献をしている。 ・スポーツ・レクリエーションの機会の創出として、東京都市町村ポッチャ大会に市民が参加し、障害者スポーツへの関心を広めた。 <p><生活習慣病の予防></p> <ul style="list-style-type: none"> ・検診受診率の向上につながった。 <p><生涯学習の推進></p> <ul style="list-style-type: none"> ・公民館主催講座後に複数の自主グループが設立され、活動が開始された。 	<p><健康づくり・介護予防の推進></p> <ul style="list-style-type: none"> ・各ボランティアの活動の継続及び地域のニーズに対し、担い手が不足している。ボランティアの活動を継続するために、モチベーションを維持するための支援が必要である。 ・各ボランティア活動の普及啓発を行い、新しい担い手を発掘する。また、ボランティアのニーズに合わせた、活動継続のための支援を今後も実施していく。 <p><生活習慣病の予防></p> <ul style="list-style-type: none"> ・検診受診勧奨の工夫及び受診しやすさを検討する必要がある。 ・周知活動に力を入れていく必要がある。 <p><生涯学習の推進></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自主グループ化に至らなかった講座については振り返り、講座受講後も継続的な学習の意欲を持てるような魅力的な講座が企画できるよう検討する。 ・おとなたちの公活パーティについては、効果的なイベントになるよう開催内容及び周知方法を見直す必要がある。 	
	生活習慣病の予防	各種がん検診受診率	胃がん 2.20% 肺がん 2.50% 大腸がん 5.70%	胃がん 2.0% 肺がん 2.40% 大腸がん 5.90%	胃がん 2.0% 肺がん 2.10% 大腸がん 4.80%	胃がん 2.2% 肺がん 3.6% 大腸がん 6.1%	胃がん 2.1% 肺がん 1.4% 大腸がん 2.5%	胃がん 2.0% 肺がん 3.4% 大腸がん 5.3%	胃がん 8.16% 肺がん 14.22% 大腸がん 14.64%		<p><健康づくり・介護予防の推進></p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護支援いきいきボランティア活動を実施するとともに、介護予防リーダー及び体操普及推進員については養成講座や活動支援を行った。 <p><生活習慣病の予防></p> <ul style="list-style-type: none"> ・大腸がん検診と基本健診のセット検診を増枠した。 <p><生涯学習の推進></p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期利用グループ数増進のため、公民館主催講座開催後の自主グループ化を積極的に促進した。 	<p><健康づくり・介護予防の推進></p> <ul style="list-style-type: none"> ・各ボランティア活動を行っていただくことが生きがいを持つことに繋がり、目標達成に貢献をしている。 ・スポーツ・レクリエーションの機会の創出として、東京都市町村ポッチャ大会に市民が参加し、障害者スポーツへの関心を広めた。 <p><生活習慣病の予防></p> <ul style="list-style-type: none"> ・検診受診率の向上につながった。 <p><生涯学習の推進></p> <ul style="list-style-type: none"> ・公民館主催講座後に複数の自主グループが設立され、活動が開始された。 	
生涯学習の推進	公民館に登録されている定期利用グループの数	411グループ	417グループ	404グループ	420グループ	413グループ	406グループ	411グループ		<p><健康づくり・介護予防の推進></p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護支援いきいきボランティア活動を実施するとともに、介護予防リーダー及び体操普及推進員については養成講座や活動支援を行った。 <p><生活習慣病の予防></p> <ul style="list-style-type: none"> ・大腸がん検診と基本健診のセット検診を増枠した。 <p><生涯学習の推進></p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期利用グループ数増進のため、公民館主催講座開催後の自主グループ化を積極的に促進した。 	<p><健康づくり・介護予防の推進></p> <ul style="list-style-type: none"> ・各ボランティア活動を行っていただくことが生きがいを持つことに繋がり、目標達成に貢献をしている。 ・スポーツ・レクリエーションの機会の創出として、東京都市町村ポッチャ大会に市民が参加し、障害者スポーツへの関心を広めた。 <p><生活習慣病の予防></p> <ul style="list-style-type: none"> ・検診受診率の向上につながった。 <p><生涯学習の推進></p> <ul style="list-style-type: none"> ・公民館主催講座後に複数の自主グループが設立され、活動が開始された。 	<p><健康づくり・介護予防の推進></p> <ul style="list-style-type: none"> ・各ボランティアの活動の継続及び地域のニーズに対し、担い手が不足している。ボランティアの活動を継続するために、モチベーションを維持するための支援が必要である。 ・各ボランティア活動の普及啓発を行い、新しい担い手を発掘する。また、ボランティアのニーズに合わせた、活動継続のための支援を今後も実施していく。 <p><生活習慣病の予防></p> <ul style="list-style-type: none"> ・検診受診勧奨の工夫及び受診しやすさを検討する必要がある。 ・周知活動に力を入れていく必要がある。 <p><生涯学習の推進></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自主グループ化に至らなかった講座については振り返り、講座受講後も継続的な学習の意欲を持てるような魅力的な講座が企画できるよう検討する。 ・おとなたちの公活パーティについては、効果的なイベントになるよう開催内容及び周知方法を見直す必要がある。 	

基本目標4 人とのつながりを大切にしながら元気に安心して暮らせる

施策	主な事業	重要業績評価指標 (KPI) 又は実施目標								施策			外部有識者意見
		指標	参考値(H26)	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	目標値(H31)	平成31年度の取組	平成31年度の成果	5年間の振り返り等	
2 市民が主役の地域をつくる	市民参画のまちづくりの推進に対する市民の満足度		10.4%	9.2%	10.8%	11.1%	11.2%	11.4%	12.8%	<p><地域コミュニティの活性化> ・自治会支援事業を実施した。 特に自治会の活性化と加入率を向上させる取組として、「自治会の手引き」、「自治会リーフレット」の配布や、写真展の実施により自治会のPRを図った。</p> <p><市民参加の機会の充実> ・ふれあい市民運動会は、スポーツ・レクリエーションを通じて地域コミュニティを上げるとともに、健康保持と相互交流を図ることを目的として、自由参加種目、事前申込み種目及び体験コーナー等を計画したが、天候不良により中止となった。</p> <p><ボランティア活動の支援> ・社会福祉協議会に設置された東大和ボランティア・市民活動センターが行う相談・支援事業の安定と充実を図る目的で補助を行った。</p>	<p><地域コミュニティの活性化> ・自治会の活性化を促し、加入率が向上するよう、自治会の安定運営と活動を支援した。 ・自治会支援事業において、各種の助成制度を活用する団体が増加したことは、自発的に活性化に繋がった。</p> <p><市民参加の機会の充実> ・ふれあい市民運動会は、天候不良により中止となった。</p> <p><ボランティア活動の支援> ・東大和ボランティア・市民活動センターに対し市が補助を行うことにより、災害ボランティアセンター設置運営訓練の拡充、市民協働による運営委員会が発足するなど、安定したボランティア支援及び拡充のための基盤ができた。</p>	<p><地域コミュニティの活性化> ・会員の高齢化に伴い、役員の確保と後継者の育成等の自治会組織の維持に係る課題はすべての自治会共通の課題である。今後の自治会活動は、住民意識の変化・社会構造の高齢化・生活様式の多様化の考慮無く成立は困難であり、行政においては解決につながる効果的な支援の検討が必要である。</p> <p><市民参加の機会の充実> ・ふれあい市民運動会のあり方を再検討するとともに、プログラム内容等を工夫し、参加者の裾野を広げていく。</p> <p><ボランティア活動の支援> ・社会福祉協議会に設置した東大和ボランティア・市民活動センターの事業でボランティア・NPO等への支援の充実を図る基盤が出来た。今後もその運営を継続かつ安定させる目的で補助を継続する。</p>	・引き続き、確実な事業の実施を期待したい。
	地域コミュニティの活性化	自治会への加入率	35.1%	34.8%	34.0%	33.3%	32.4%	31.9%	36.8%				
	市民参加の機会の充実	ふれあい市民運動会参加者数	2,300人	2,000人	2,034人	2,209人	天候不良により中止	天候不良により中止	3,000人				
	ボランティア活動の支援	地域福祉活動を行うボランティアグループの登録数	19グループ	19グループ	19グループ	19グループ	21グループ	24グループ	28グループ				

基本目標4 人とのつながりを大切にしながら元気に安心して暮らせる

施策	主な事業	重要業績評価指標 (KPI) 又は実施目標								施策			外部有識者意見
		指標	参考値(H26)	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	目標値(H31)	平成31年度の取組	平成31年度の成果	5年間の振り返り等	
3 安心して暮らせる 環境をつくる	防犯・防災体制 推進に対する 市民の満足 度	防犯・防災体制 推進に対する 市民の満足 度	防犯15.7% 防災22.0%	防犯15.8% 防災17.7%	防犯14.9% 防災16.5%	防犯14.5% 防災17.2%	防犯16.4% 防災18.3%	防犯16.5% 防災19.8%	防犯18.2% 防災23.0%	<p><防犯・防災体制の推進等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・防犯・防災資器材の配布、防災訓練等での物資の提供や人的支援、各種防災訓練を行なった。 ・青色回転灯パトロールや安全・安心情報サービスを実施し、地域の安心・安全な見守りに努めた。 <p><緑と水の環境整備></p> <ul style="list-style-type: none"> ・東大和市特色ある公園整備基本方針に基づき、特色ある公園の補助的な公園のテーマである花づくりの楽しめる公園の整備を進めた。 <p><地域の見守り活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・民生委員、見守り声かけ協力員、高齢者見守り関係機関、行政等が連携し、地域社会で孤立しがちな高齢者の見守り活動を行った。 	<p><防犯・防災体制の推進等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・防犯・防災体制の推進・自主防災組織の数の増減は無かった。 <p><緑と水の環境整備></p> <ul style="list-style-type: none"> ・特色のある公園については、主要な拠点となる公園のテーマとしての公園は未設置であるが、特色ある公園の補助的な公園のテーマである花づくりの楽しめる公園が、20か所設置することができ、東大和市特色ある公園整備基本方針における、補助的な公園テーマの一つを達成した。 <p><地域の見守り活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が住みなれた地域で、安心して暮らし続けることができる地域社会の構築に努めた。 ・地域や事業者との協働による見守り体制の構築が図られ、子どもと高齢者が安心して在宅生活を継続していく上での基盤を強化することができた。 	<p><防犯・防災体制の推進等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自主防犯・防災組織では、組織員の高齢化の課題がある。 ・自主防犯・防災組織組織数を増やすことについては、限界が近づいており、今後は支援の有り方について検討していく必要がある。 <p><緑と水の環境整備></p> <ul style="list-style-type: none"> ・特色ある公園は、第二次東大和市緑の基本計画を策定し、目標値を設定した。 ・今後は、公園施設長寿命化計画策定とともに特色ある公園の対象候補公園を選定していく。 <p><地域の見守り活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・超高齢化社会の到来により、ひとり暮らし高齢者や認知症の症状のある高齢者が増えることが予測される。あわせて、地域社会における付き合いや家族関係は時代とともに希薄化が進み、地域の支え合い機能が低下しつつある。このような中で、より一層効果的な地域の見守り活動が行えるように、体制を整備する必要がある。 	<p>・特色のある公園について、なかなか進展していないように感じる。難しいようであれば、子どもが安心して利用できるという点に注力してほしい。</p> <p>・防犯対策として、青色回転灯パトロールカーが主に午後市内を巡回しているが、子どもの登校時間である朝にもパトロールをしてほしい。</p>
	防犯・防災体制 の推進	自主防犯組織 の数 自主防災組織 の数	防犯20団体 防災36団体	防犯21団体 防災37団体	防犯21団体 防災38団体	防犯21団体 防災39団体	防犯21団体 防災41団体	防犯21団体 防災41団体	防犯25団体 防災43団体				
	緑と水の環境整備	特色ある公園 の数	-	-	-	-	-	-	6か所/5年間				
地域の見守り活動	見守り声かけ 活動協力者数	300人	300人	291人	289人	289人	281人	311人					